



# 鎮守の森だより

NPO 法人社叢学会ニュース

第134号

2025年8月1日

## 社叢インストラクター養成セミナー（資格取得）実施 —資格をいかして社叢の保全活動を！—

2025年度社叢インストラクター養成セミナーを下記の通り開催します。社叢インストラクター養成セミナーと同時に資格認定試験を実施しますので、この機に是非、ご受講と資格取得をめざしてください（セミナーのみの受講も可能です）。

なお9月6日の午後の講演は、関西定例研究会と共催です。会員および一般参加を歓迎します。インストラクター養成講座参加希望の方は会員、非会員、住所、氏名を記入の上、FAX(075-212-2973)またはメール(shasou@ams.odn.ne.jp)でお申し込みください。

記

■日 時：2025年9月6日（土）および7日（日）

■場 所：下鴨神社および吉田神社

■申込締切：8月28日（木）必着

■セミナー受講料：会員は15,000円、市民会員は18,000円

資格認定試験を受験される方は別途5,000円が必要です。

※フォローアップセミナー（インストラクター取得者）3,000円/日（5,000円/両日）

■受験資格：本学会会員（市民会員はセミナー受講料にて2025年度会員となります）



申込用紙は  
こちらから

9月6日(土) 下鴨神社（公文所） （京都市左京区下鴨泉川町59）	
10:00～10:20	セミナー開講の挨拶 ガイダンス（前迫ゆり）
10:20～12:20	社叢の樹木実習（フィールド） 講 義（武田義明・前迫ゆり）
13:00～14:30	関西定例研究会 下鴨神社の社叢観察と講演（櫻井治男）
14:40～15:50	社叢の構造と組成社叢の保全 社叢管理と生物多様性
16:00～16:30	総 括

9月7日(日) 吉田神社（参集殿） （京都市左京区吉田神楽岡町30番地）	
10:00～10:15	ガイダンス （昨日のまとめ、スケジュールなど）
10:20～12:20	社叢フィールド観察：樹木実習・森林構造、 社叢の保全と管理について（前迫・武田）
13:00～14:30	自然共生サイトとは（武田・前迫） 社叢管理と都市（糸谷正俊）
14:40～	総 括
15:00～	社叢インストラクター資格認定試験

## 次回予告 【第96回関西定例研究会】

◆日 時：9月6日（土）13:00～14:30、申し込み不要

◆場 所：下鴨神社（社叢の観察と講演）

◆テーマ：「伊勢神宮の遷宮行事と御杣山」（櫻井治男）、社叢見学「社叢の樹木と生態」（前迫ゆり）

◆講 師：櫻井治男・前迫ゆり

◆参加費：会員無料（非会員 500円）

第1号議案

令和6年度事業報告書  
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
通常総会の開催	総会審議	6月23日	住吉大社
理事会の開催(4回)			
第74回	令和4年度総会開催 等	6月22日	住吉大社吉祥殿
第75回	正副理事長選任	6月23日	
第76回	令和7年度総会開催、今後の事業の進め方と役割分担、OECM推進の取り組みについて 等	11月26日	社義学会事務局等
第77回	令和7年度総会運営 等	3月25日	社義学会事務局等
定例研究会の開催			
関西			
第93回	石清水八幡宮のカヤノキ(見学と講演)	6月8日	石清水八幡宮青少年文化体育研修センター
第94回	神社空間を核としたコミュニティ形成の実践	11月24日	松尾大社
関東			
第92回	東京近郊の鎮守の森の現状を觀るⅡ武蔵国社義見守り隊～2024.1	4月27日	國學院大學
第93回	人の生活と未来に託す鎮守の杜	10月12日	國學院大學
第94回	東日本大震災―神社の復興とともに歩んだ13年	2月22日	國學院大學
中部			
第40回	鈴鹿山麓の社義を訪ねて	3月15日	廣幡神社・福王神社
九州			
第12回	第11回宗像国際環境会議に参加	10月26日～28日	宗像大社
社義保存活動	社義見守り隊事業	通年	関東
会員証発行	希望する会員に発行	通年	希望者へ郵送
会報発行(4回)	「鎮守の森だより」(129号～132号)(A4判・4もしくは6ページ)	年4回	会員へ郵送
会誌発行	『社義学研究』23号(A4判・108頁)	3月10日	会員へ郵送
社義インストラクター養成事業	社義インストラクター養成セミナー 社義インストラクター資格更新	11月17日、24日 3月	下鴨神社、松尾大社 本部事務局
OECM推進事業	社義の自然共生サイト認定にむけての研究および広報	通年	関連各所
ホームページおよびSNSの運営	会員並びに一般市民に対するPR	通年	インターネット

第2号議案

令和6年度収支決算  
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで) (単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部	予算	決算
1 会費収入	3,008,000	3,152,000
正会員会費	960,000	1,020,000
市民会員会費	128,000	132,000
賛助会員会費	1,350,000	1,450,000
協力会員会費	570,000	550,000
2 事業収入	760,000	923,360
社義インストラクター養成事業	25,000	47,000
資格検定料・認定料		15,000
養成セミナー参加料		32,000
書籍販売	15,000	39,360
総会関連事業参加費等	720,000	837,000
4 雑収入	30,010	92,798
寄附金	30,000	92,000
利息	10	798
当期収入合計(A)	3,798,010	4,168,158
II 支出の部	予算	決算
1 事業費	1,633,000	1,704,122
総会関係費	900,000	1,060,376
定例研究会費	100,000	63,220
会報「鎮守の森だより」関係費	200,000	251,795
会誌『社義学研究』関係費	400,000	283,550
社義インストラクター養成事業費	30,000	45,181
養成セミナー等関係費	30,000	45,181
社義管理事業	3,000	0
社義見守り隊事業	3,000	0
2 管理費	2,155,000	2,181,150
雑給	860,000	960,000
旅費交通費	70,000	9,700
通信費	150,000	94,487
地代家賃	924,000	924,000
租税公課	1,000	0
事務用品費	70,000	126,976
支払手数料	70,000	59,027
水道光熱費	7,000	6,960
理事会関係費	3,000	0
3 予備費	10,000	0
当期支出合計(B)	3,798,000	3,885,272
当期収支出差額(A)－(B)	10	282,886
前期繰越支出差額(C)	779,933	779,933
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)	779,943	1,062,819

第3号議案

令和7年度事業計画書  
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

事業名	事業内容	実施予定日等	実施予定場所等
通常総会の開催		6月21日	太宰府天満宮
関連事業の実施	シンポジウム・研究発表	6月21日	同上
関連事業の実施	竈門神社、英彦山等	6月22日	竈門神社等
理事会の開催		3回程度	リモート開催等
定例研究会の開催			
関西定例研究会	会員相互の研鑽、市民への啓発	5月・9月・令和8年3月	関西地方の社義等
関東定例研究会	会員相互の研鑽、市民への啓発	5月・9月・11月・令和8年1月	國學院大学他
中部定例研究会	会員相互の研鑽、市民への啓発	9月・令和8年3月	中部地方の社義等
九州定例研究会	会員相互の研鑽、市民への啓発	1回程度	宗像大社等
社義保存活動	社義見守り隊事業	通年	全国
会員証発行	令和7年度会員証希望者分	5月～	希望者へ郵送
会報発行(4回)	「鎮守の森だより」：情報と研究会報告	5月・7月・10月・令和8年1月初旬	会員へ郵送
会誌発行	『社義学研究』研究論文と情報	令和8年3月	会員へ郵送
社義インストラクター養成事業	社義インストラクター養成セミナー等の開催 社義インストラクター資格検定試験の実施 社義インストラクターの運営	9月 セミナー最終日	
OECM推進事業	社義の自然共生サイト認定にむけての研究および広報	通年	関連各所
ホームページおよびSNSの運営	会員並びに一般市民に対するPR	通年	インターネット

第4号議案

令和7年度収支予算  
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

科 目	予算	前年度予算
I 収入の部		
1 会費収入	3,008,000	3,008,000
正会員会費	960,000	960,000
市民会員会費	128,000	128,000
賛助会員会費	1,350,000	1,350,000
協力会員会費	570,000	570,000
2 事業収入	760,000	760,000
社義インストラクター養成事業	25,000	25,000
資格検定料・認定料	25,000	25,000
養成セミナー参加料	0	0
書籍販売	15,000	15,000
総会関連事業参加費等	720,000	720,000
3 雑収入	30,010	30,010
寄附金	30,000	30,000
利息	10	10
当期収入合計(A)	3,798,010	3,798,010
II 支出の部	予算	前年度予算
1 事業費	1,568,000	1,633,000
総会関係費	900,000	900,000
定例研究会費	100,000	100,000
会報「鎮守の森だより」関係費	220,000	200,000
会誌『社義学研究』関係費	300,000	400,000
社義インストラクター養成事業費	45,000	30,000
資格制度関係費	0	0
クラブ事業費	0	0
養成セミナー等関係費	45,000	30,000
社義管理事業	3,000	3,000
社義見守り隊事業	0	0
2 管理費	2,215,000	2,155,000
雑給	840,000	860,000
旅費交通費	100,000	70,000
通信費	120,000	150,000
地代家賃	924,000	924,000
租税公課	1,000	1,000
事務用品費	150,000	70,000
支払手数料	70,000	70,000
水道光熱費	7,000	7,000
理事会関係費	3,000	3,000
3 予備費	0	10,000
当期支出合計(B)	3,783,000	3,798,000
当期収支出差額(A)－(B)	15,010	10
前期繰越支出差額(C)	1,062,819	779,933
次期繰越収支差額(A)－(B)＋(C)	1,077,829	779,943

## 令和7年度年次総会を太宰府天満宮にて開催 - 太宰府天満宮の社叢と九州の山岳信仰の歴史を学んだ二日間 -

太宰府天満宮の皆さまと九州支部のご協力のもと、6月21日（土）、22日（日）の二日間にわたり、令和7年度の年次総会、研究大会、シンポジウム並びに見学会を実施した。

第一日目は太宰府天満宮にて櫻井治男理事長の玉串奉奠による正式参拝の後、改修工事中の御本殿素屋根を見学し、宝物殿にて、工事期間中の仮殿の建築設計者に因んだ「藤本壮介」展を拝観した。参拝及び拝観後の通常総会では、西高辻信宏宮司による歓迎挨拶の後、令和6年度の事業報告並びに決算、令和7年度の事業計画並びに予算が審議され、いずれも可決の後、新たに社叢インストラクター資格を取得した小山葉奈氏への認定証の授与がなされた。

続いて、太宰府天満宮顧問で主管学芸員、更に、本学会顧問でもある味酒安則氏より「太宰府天満宮社叢の歴史と仮殿」と題する特別講演をいただいた。

午後は、同会場にて、研究発表とシンポジウム。研究発表では、ともに会員である大阪国学院講師の渡邊規矩郎氏及び京都大学大学院地球環境学舎の小山葉奈氏による研究成果が披露され、続くシンポジウムでは、九州大学大学院芸術工学研究院教授の知足美加子氏による「英彦山修験道における植物崇敬と文化継承」、九州大学大学院農学研究院教授の渡辺敦史氏による「日本人はなぜ樹木を植栽してきたのか？～過去の樹木植栽から伺えるその目的意識～」と題する基調講演がなされ、その後、福岡県文化財

保護審議会会長で日本山岳修験学会理事の森弘子氏をコーディネータとするパネルディスカッションが行われた。パネリストは、基調講演のお二人に、株式会社グリーンエルム代表の西野文貴氏と英彦山神宮祢宜の高千穂有昭氏を交えた四名で、西野氏には「世界に誇る『鎮守の杜』とその創り方」、高千穂氏には「山岳信仰と社叢」の話題提供をいただいた。

翌日の第二日目は、見学会を催行。団体バスにて、シンポジウムでも話題となった宝満山<sup>たからみづのふもと</sup>信仰の歴史を有する竈門神社を参拝の後、同社の松大路信潔権禰宜のご案内で社叢を見学した。その後、東峰村に移動、宝満山や英彦山の修験者が行路で籠ったとされる行者堂並びに修行の際に同地を訪れた行者がそれぞれ植えたと言われる行者杉を見学した。行者堂では同村で文化財保護に長年携わった日高正幸氏のご説明を受け、通常は開扉されていない行者堂の内部を拝観させていただいた。現在、行者杉の大木としては最も大きい大王杉の外、霊験杉、鬼杉、境目杉が残る。境目杉とは国見太郎とも称される大杉で、豊前、筑前の境にあることから名付けられた。

見学は、更に英彦山神宮へ。添田町の英彦山中腹に鎮座する英彦山神宮の奉幣殿にて正式参拝の後、高千穂氏による境内の案内と社叢見学が実施された。

以上、二日間にわたって、内容の濃い、有意義な年次総会であった。詳細は来春に刊行予定の『社叢学研究』第24号に掲載される。

## 第12回 宗像国際環境会議 開催

宗像国際環境会議実行員会は、玄界灘の海水温度の上昇により沿岸部に広がる磯焼け、漂着ゴミ（マイクロプラスチック）の問題を中心に「海の鎮守の森」構想を掲げ、海の再生事業に取り組みながら、近年の急激な海の変化への提言や情報を国内外に発信するため、平成26年に設立され、毎年シンポジウムを開催しております。

本年も下記日程で第12回宗像国際環境会議を開催いたします。森里川海といった地球環境の保全はもとより、それに関わる人々を繋ぎ、次世代を担う人材の育成、地方創生等について、宗像の地で考え行動し発信することを目的として、各分野の専門家を

招聘し、多角的な議論を進めてまいります。

過去の動画や詳細情報は、随時下記の公式ホームページにて情報を公開してまいりますので、ご確認の程を宜しくお願いいたします。

記

1. 名 称 第12回宗像国際環境会議
2. 日 程 令和7年10月26日（日）～10月28日（火）
3. 場 所 宗像大社（福岡県宗像市田島2331、0940-62-1311）
4. 内 容 定まり次第公式ホームページにて公開  
※宗像国際環境会議 <https://www.munakata-eco.jp/>
5. 主 催 公益財団法人 三千年の未来会議
6. 主 管 宗像国際環境会議実行委員会

## 次回予告 【第41回中部定例研究会】

- ◆日 時：9月28日（土）11：00～15：30、申し込み不要
- ◆場 所：JR垂井駅南口集合、八重垣神社、昼食後、13時～南宮大社（岐阜県不破郡垂井町）
- ◆テーマ：「南宮大社と南宮山の植物について」
- ◆講 師：荒井寛臣（南宮大社禰宜）・櫻井治男・岡村 穰・長谷川泰洋（敬称略）
- ◆参加費：会員無料（非会員 500円）、連絡先：岡村 穰 090-9924-9964



## 名木の巨木と見慣れない樹木を訪ねて

## - 小石川植物園草木観察会

解 説：濱野周泰氏（生物環境調整学博士）  
東京農業大学地域環境科学部・社叢学会副理事長）

新緑の美しい季節となった。今回の関東定例会は、東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）に集合し、実際に植物に触れながら杜への理解を深めようという趣向である。雨上がりで足元が不安定なところもあったが、空気は澄み、水を得て木々の葉は、益々青々と瑞々しく輝くなか、濱野副理事長をはじめ、参加された先生方から多岐にわたってお話いただきながらの楽しい見学会となった。

東京大学の附属施設である小石川植物園は日本最古の近代植物園で、2023年春のNHK朝ドラ「らんまん」のモデルとなった植物学者牧野富太郎が活躍した舞台でもある。前身は1684年（貞享元年）に徳川幕府が設けた「小石川御薬園」で、1877年（明治10年）東京大学創設にともない大学附属の植物園となり、2012年に国の名勝および史跡に指定された。

また、江戸幕府によって設立された無料医療施設、『赤ひげ診療譚』で良く知られた小石川養生所跡が植物園内にある。現在、井戸が残されている。

東西約750m、南北約300m、面積は約16haで傾斜地や台地、泉水地などもある変化に富んだ敷地の中に、温室や分類標本園、日本庭園、意外にも稲荷神社（太郎稲荷、次郎稲荷）などの神社もあり、家族連れの憩う姿も見られた。



写真 次郎稲荷

ニュートンの生家にあった木の枝を接木したという「ニュートンのリンゴ」やメンデルが遺伝の実験に用いたブドウの分株である「メンデルのブドウ」、

平野作五郎が研究に用いた「精子発見のイチヨウ」など研究機関らしいネーミングのついた樹木や、ウメ林、ソメイヨシノ林、イロハモミジ林など、1年を通じて楽しめ、温室では小笠原諸島の絶滅危惧植物の保護増殖も行われている。のびのびと育った大樹の下には葉や木の実が落ち、そこからまた新しい芽が出る。落ち葉を踏む音や鳥のさえずりに耳を澄ます。



写真 ニュートンのリンゴ

東京では身近に感じる事が難しくなった自然に触れ、植物について知る楽しさと共に、心も体も元気をもらった見学会であった。

見るもの多く、豊かな知識を惜しみなく披露してくださる先生方の解説に魅了され、なかなか歩みが進まず、閉園の4時30分ぎりぎりに入出口の正門に辿り着いて撮った写真。会員の有田さんはまだ門から出ていない。（文責 渡邊節子）



写真 見学会を終えて



## 都市の緑と鳥 - 鳥から見た社寺林と自然共生サイト

話題提供：福井 亘氏（京都府立大学大学院）

須川 恒氏（日本鳥学会・龍谷大学里山学研究センター）

討論司会：森本幸裕氏（京都大学名誉教授・社叢学会副理事長）

## ◇趣 旨

梅小路公園は都心の孤立緑地。自然から程遠かった場所が整備後四半世紀を経て成熟。コアとなる「朱雀の庭・いのちの森」が、新たな自然保護制度である「自然共生サイト」に認定されました。これを機に、孤立林であることも多い社寺林の自然共生サイト認定推進に向けて、鳥の視点から考えてみました。

今回は社叢学会に加えて、(公財)京都市都市緑化協会の自然共生サイト認定記念行事、及び日本鳥学会員近畿地区懇談会例会としても位置付けて、異分野交流で社叢学会の宣伝も狙った次第。

## ◇話題提供（1）

「都市の緑と鳥」 福井 亘（京都府立大学大学院）

洛中洛外の緑をみると、様々な緑の環境が確認できる。公園はもちろん、河川敷の緑、庭園、生産緑地など多種多様に見られる。中でも神社林や御苑のような環境は、洛中の中でも貴重な緑の空間を長い年月担保し、現在にも緑を提供してくれている。このような緑は、都市に住む住民にとっても貴重な空間であり、生き物にとっても生息する場として重要である。生物多様性の観点や生態系サービスにとっても重要な環境と言える。そういった都市の生態系を見る指標の一つに「鳥」がいる。生態系の上位種にあたる鳥を見ることで、その場の生態的な空間の状況が少し理解できる。特に、京都御苑や神社林の糺の森のように持続されてきた緑の環境は、洛中洛外では昔からの環境であり、そこで調査してみると様々な鳥を確認することができる。様々な鳥を確認することで、そこが豊かな多様性を有することも推察できた。また、他の国内都市に比べて、洛中は多様性の高い環境の結果を示していることも明らかになった。この結果は、都市の緑と鳥との関係を探る手掛かりにもなり、また様々な関係性も確認できるが、多様性が豊かなのは、こういった緑が長い間、持続され、維持されてきたからこそであると言える。

## ◇話題提供（2）

「鳥の京都府レッドデータブックを読み解く」

須川 恒（京都府RDB鳥類分科会代表）

レッドデータブックは、次世代に伝えるべき自然財の財産目録作成です。1990年代に入って国のレッドデータブック作成がはじまり、鳥類は1990年代に日本鳥学会会員有志が近畿地区版を作成しました。この作成も受けて、京都府では2002年にレッドデー

タブック初版を出版。2015年に第2版の改訂版が、また現在第3版に向けての改訂作業が進んでいます。レッドデータブック改訂には多くの野鳥観察者・調査者による多数の情報を活用します。その結果第3版では鳥類114種がレッドリストに掲載されました（絶滅寸前種15種、絶滅危惧種49種、準絶滅危惧種48種、要注目種2種）。京都府で記録された346種の約3割が保護する必要があります。生息環境別には、府内の山地・山林などの森林環境、海岸域や河川、水田などの湿地環境が鳥類の生息環境として重要です。

希少性がランクアップした種を通して京都府の環境の変化が見えてきます。森林環境ではシカ害が原因と思われる種が目立ち、河川では河川敷やヨシ原の悪化が原因と思われる種が目立ち、農耕地でも環境の悪化が原因と思われる種が目立ちます。

レッドデータブックを活用して鳥類生息環境の保護や普及啓発に活用するために、市町村単位にどのような鳥類が生息しているかを示すことが必要です。また、京都府の希少野生生物保全条例も活用して、地域単位に幅広い分野の方々と連携する道が大切です。

## ◇講演の間に行った巡検では「いのちの森モニタリンググループ」のお世話になりました。

討論では森本がコーディネータとなり、これからの方向性について議論。「適度な手入れの重要性」「鳥は生態系の豊かさのバロメーター」「鎮守の森ではアオバズクがよい指標となる」などの保全の手掛かりも得られ、最後に櫻井理事長の挨拶で締めくくりました。

この様子（写真）は京都新聞にも報道されました。（参加者数46名）



## 第78回理事会を開催

年次総会に先立ち、前日に太宰府天満宮余香殿にて、第78回理事会が開催されました。

開催日時：2025年6月20日（金）14:30～16時

出席者：全理事22名のうち20名（委任状提出8名）

審議事項

第1号議案：令和7年度通常総会の運営について

第2号議案：令和7年度通常総会の議案について

第3号議案：理事の退任・新任について

第4号議案：定款の変更に関する課題について

報告事項：令和7年度の定例研究会の開催・事務局運営・来年度の総会の開催地について

理事会では、通常総会において審議される議案の確認の外、今後の事務局体制についての検討、理事・監査の異動、「葵祭」で使用されるフタバアオイの保護・育成を目指す葵プロジェクトや賛助会員でアプリ「Biome」を開発運営する㈱バイオームの紹介、次年度の年次総会の開催地区等についての議論がなされました。議案については、総会資料と同様です。

## 事務局から

お陰様で、年次総会が無事終わり、本ニュースレターに掲載されましたように、令和6年度の事業報告及び決算、並びに令和7年度の事業計画及び予算が承認されました。慌ただしい準備でしたが、会場となった太宰府天満宮のご関係者様のご尽力のおかげで心のこもったよい総会となり、特別講演を始め、シンポジウムや見学会も好評のようで何よりです。九州の歴史と伝統の重み、古来より大切に守ってこ

られた社叢を学ぶ得難い機会となりました。

今年も社叢インストラクター研修が行われます。新しく社叢インストラクターを目指される方も、また、社叢の歴史や自然環境について再度の学び直しをお考えの方も、お申込みいただくと幸いです。

## 編集後記

年次総会を挟みながら、慌ただしい編集作業でしたが、理事、会員の皆様のご協力により、無事、第134号のニュースレターをお届けすることができました。

年4回の発行ですが、各支部ともに活動が活発なため、定例会の予告、報告、年次総会の予告と成果など、限られた紙面では十分にお伝え出来ない点が心苦しいところです。学会活動では多くの情報があり、これまで年6回の発行の際には、4頁仕立てと6頁仕立てでしたが、今後は年間を通じて6頁仕立てとして進めていく考えです。

巷では米の販売価格や入手の困難性など、令和の米騒動とも言われるような事象を生じています。民俗学者の柳田国男によれば、日本人は稲作願望民族である、とのことですが、我々が対象とする社叢とその基底にある信仰は稲作との関連なしに考えることはできません。一時の米不足ではなく、高齢化が進む日本の農業そのものの存続の危機とされる今日。確かに中山間地に鎮座する古社を訪ねると、そのようなことを実感する今日この頃です。こうした論考も可能な限りニュースレターに取り上げてみたいとは思いますが、予算の充実のためにお知恵があれば拝借したいところです。（編集担当 賀来宏和）

## 次回予告 【第96回関東定例研究会】

- ◆日 時：10月25日（土）14:00～16:00
- ◆場 所：國學院大學キャンパス（教室は未定）
- ◆テーマ：「聖なる森に憧れて」（仮題）
- ◆講 師：ケビン・ショート（Kevin Short）博士  
\*講師のブログ：ケビンの里山そぞろ歩き <https://kevinsatoyama.com/>
- ◆費 用：無 料（申し込み不要）

## 『原稿募集』

『社叢学研究』第24号（令和8年3月発行予定）への投稿：論文・研究ノート・短報・資料紹介や調査報告と「鎮守の森の活動報告（祭・音楽会・調査・ワークショップなどの実施報告、抱える問題点など）」や「社叢訪問記」など、会員の皆様の多彩な原稿を随時募集しています。

\* 次号掲載のための大まかな締め切りは右の通りです。論文等は10月末日、活動報告等は1月10日。

\* 会誌の投稿規程と論文の体裁など以下をご参照ください。 <http://www.shasou.org/iourna1/format.pdf>

\* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げています。出版された方は、ぜひ事務局へご連絡下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)